

二〇二〇年五月一日(参加者二三名)

窯出でし素焼きの狸陽炎へる	宏	虎
森なせる陸軍墓地や百千鳥	ぼんこ	
園児らのお散歩時間百千鳥	菜々	
百千鳥石段登りつめしより	満天	
海に向く砲台の跡かげろへる	わかば	
かぎろひの沖にたゆたふ巨船かな	こすもす	
人け無き奥の院なり百千鳥	はく子	
陽炎や荷造り小さく町を出づ	なつき	
百千鳥声の一つに聞き覚え	董雨	
陽炎や高層マンション傾ぐかに	満天	
子らのぬぬ園の遊具のかげろへる	もところ	
百千鳥写経の筆を休めけり	かかし	
陽炎ひを肩ゆすりくる路線バス	よし子	
ジェット機の陽炎ひながらいま離陸	はく子	
陽炎の沖に行き交ふ船の影	わかば	
百千鳥鳴いて里山膨らます	菜々	

鐘一打あとの余韻に百千鳥	小	袖
人影のありて陽炎ふ歩道橋	せいじ	
このダムに沈みし村や百千鳥	たか子	
住み古りし能勢の山里百千鳥	うつき	
かぎろひの野を浮かみくる一輛車	菜々	
ダム湖へと溪谷の道百千鳥	よう子	
山門を潜るや否や百千鳥	みづき	
どの木にも樹名札あり百千鳥	うつき	
まほろばにかぎろひ見ゆる御陵かな	明日香	
甘檉より明日香一望百千鳥	明日香	

WEB句会みのる選・二〇二〇年五月一日